

タケシール

#101カラー

防水

JIS A-6021 ウレタン系1類規格適合品

屋上・ベランダ

弾性ウレタン防水材



竹林化学工業株式会社

タケシール#101カラーは、

屋根用防水材 JIS A 6021 ウレタンゴム系 1型規格に適合した無溶剤ポリウレタン 2液混合型防水材（A液：B液 = 8kg : 8kg の 1.6kg 標準セット）です。

タケシールウレタン防水材のシリーズの中でも軽歩行面に適し耐車輒性に優れます。

ポリウレタン特有の軽量で強靭、しかも、気温の変化に左右されない安定した弾力伸縮性は、建物を雨水の侵入から守る防水塗膜としての下地適応性と、ソフトな歩行感を併せ持ります。

- 用途
- ・ベランダおよびバラベットの防水
 - ・屋上防水
 - ・屋外廊下および通路
 - ・養護施設等軒樋による怪我防止のための弹性床

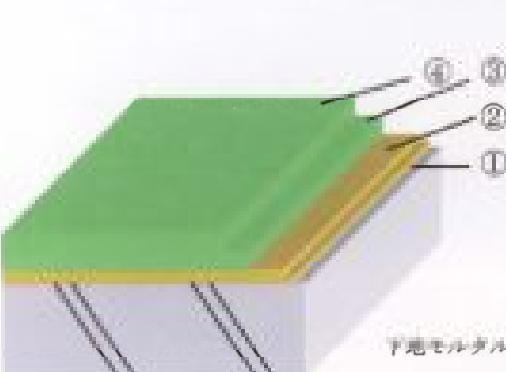
当商品を塗布する前には、下地処理と下塗り（プライマー塗布）が必要です。

下地の種類や、状態によって最適の下塗り材料をご使用ください。

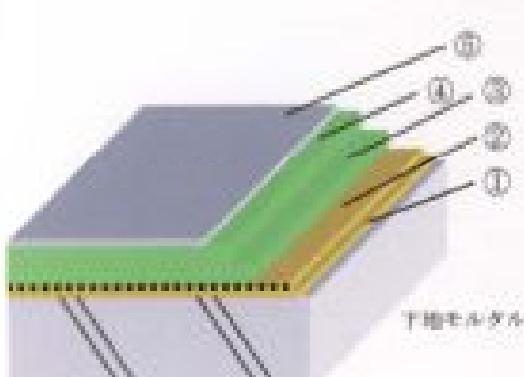
上塗り材（トップコート）仕上げで、さらに耐久性と美しさを長く維持します。

定期のある溶剂系下塗り材・上塗り材に加え、水系シリーズと組み合わせると、環境に配慮した、トルエン・キシレン等の溶剤臭を伴わない工程も選べます。

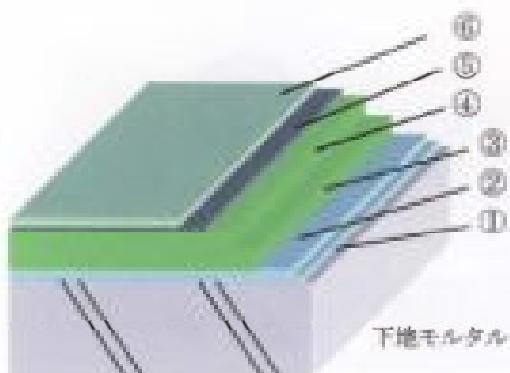
タケシール#101カラー施工略図



一般防水塗布例		(晴天時気温 20°Cの場合)	
工程	塗布量	塗装間隔	
①	#T-#400 プライマー	0.3kg/m ²	1時間後
②	#T-#400 プライマー	0.2	2~3時間後
③	#T-#101 カラー	1.0	24時間後
④	#T-#101 カラー	1.0	24時間後 軽歩行可能



推奨一般防水塗布例		(晴天時気温 20°Cの場合)	
工程	塗布量	塗装間隔	
①	#T-#E-500 プライマー #100 テンパー 30%希釈	0.80kg/m ²	1時間後
②	補強クロス張り #T-#E-500 プライマー	0.3	3時間後
③	#T-#101 カラー	1.5	24時間後
④	#T-#101 カラー	2.0	24時間後
⑤	#T-#3000 トップコート	0.2	7時間後 軽歩行可能



環境対応推奨工法

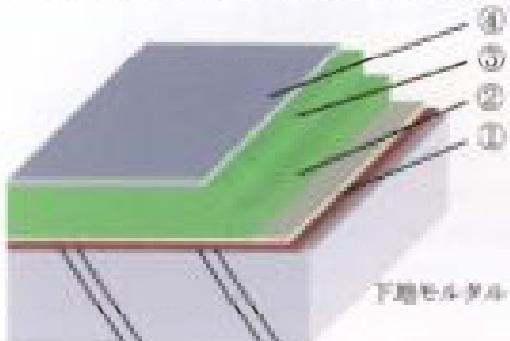
(晴天時気温 20°Cの場合)

工程		塗布量	塗装間隔
①	タンク AE-211 プライマー (水系低臭下塗り材)	0.15kg/m ²	2時間後
②	タンク AE-211 プライマー	0.15	3~4時間後
③	タンク AE-101 カラー	1.5	24時間後
④	タンク AE-101 カラー	2.0	2~3日後
⑤	タンク A-Q 層間プライマー	0.1	3時間後
⑥	タンク A-Q ラグコート (水系低臭仕上げ材)	0.1~0.12	4時間後 軽歩行可能

国土交通省「建築工事仕様(平成13年度版)」

種別 X-1 対応仕様

(晴天時気温 20°Cの場合)



工程

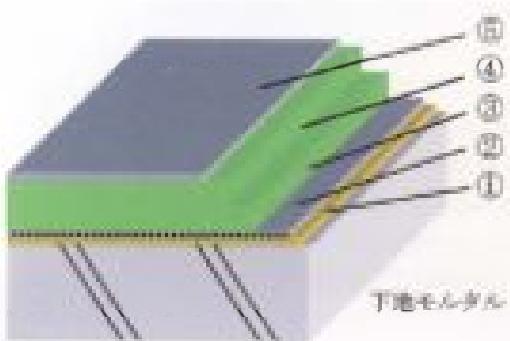
(晴天時気温 20°Cの場合)

工程		塗布量	塗装間隔
①	タンク AE接着剤(水系低臭) 透気緩衝シート	0.15(kg/m ²)	4時間後
②	タンク AE-101 カラー	1.5	24時間後
③	タンク AE-101 カラー	1.5	24時間後
④	タンク AE-3000 トップコート	0.2	7時間後 軽歩行可能

国土交通省「建築工事仕様(平成13年度版)」

種別 X-2 対応仕様

(晴天時気温 20°Cの場合)



工程

(晴天時気温 20°Cの場合)

工程		塗布量	塗装間隔
①	タンク AE-211 プライマー タンク AE-211 プライマー	0.15(kg/m ²) 0.15	2時間後 3~4時間後
②	タンク AE-101 カラー 補強布張り (補強率1)	0.4	3時間後
③	タンク AE-101 カラー	1.5	24時間後
④	タンク AE-101 カラー	1.5	24時間後
⑤	タンク AE-3000 トップコート	0.2	7時間後 軽歩行可能

可使時間と軽歩行可能時間 (下記の時間は晴天時日中の気温を基準に)

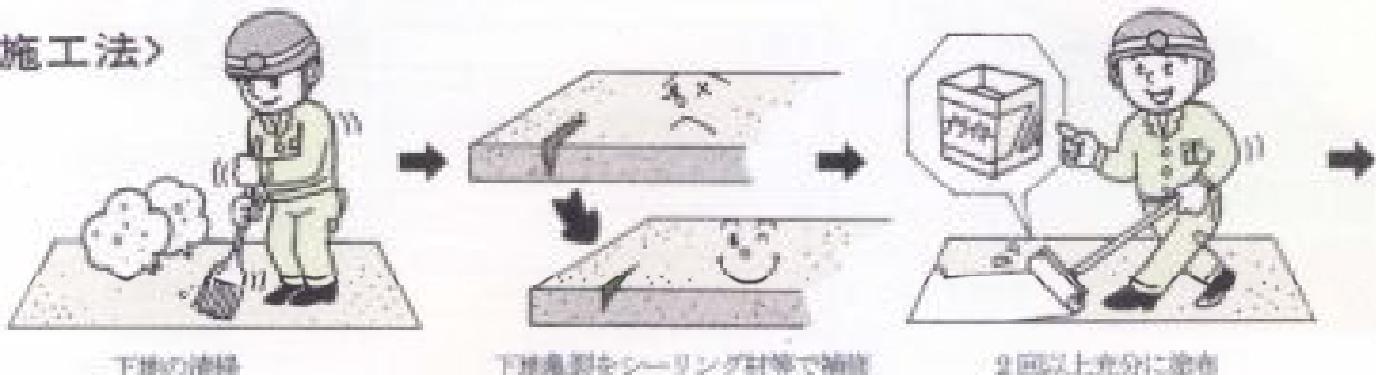
	10°C (冬季) (硬化時間延長時間)	25°C (春秋季)	35°C (夏季)
可使時間	50分 (30分 ² り)	25分	15分
軽歩行可能時間	36時間 (36時間 ² り)	24時間	16時間
室外搬等設置可能日数	5日 (3日 ² り)	3日	2日

(注) タケシール#101 密封硬化促進剤 1つをタケシール#101 カラー 16kg/t-Hに使用開始時に添加した場合
目離しの当る早上・ペランダで作業の場合、添加量を半分以下に調整願います。

夏季御使用前には、直射日光を避け、当商品を涼しい状態で保管してください。

日中の炎天直下に置いた場合、内容物が高温になって可使時間が確保できずに硬化してしまう場合が生じます。
保管する場合は、直射日光の当たらない場所もしくは、養生シートで覆う等、内容物の温度が高くならない
よう配慮願います。

〈施工法〉



下 地	前処理	プライマーの塗布 <small>(下地がモルタルの場合)</small>
<ul style="list-style-type: none"> モルタル面は砂利、鉄筋、小石などの突起物のないように平滑にして下さい。 新設モルタルに施工する場合は、表面が白く乾燥してからレイターンスを除去後にして下さい。 既設モルタルの施工は均しモルタルでアールをとり、ビニオングクロスで綿拭します。 木内面の手直しをします。 金属面の手直し後はペーパー、ワイヤーグラフで取り綿ります。 ALC板の場合は乾燥工法にて施工して下さい。 計画的に塗り重ねる時は鋼材を下さい。既設木屋がピラー、ケーブル類の場合はタケシール#101の使用を避けて下さい。この場合はタケトップ仕上げになります。 ドクト防水に塗り重ねる時は、表面をサンダー等で粗削りをして洗浄後、#400プライマーを約0.2kg/m²塗布し、硬化剤を塗してから#101を塗布して下さい。 既設鋼材は、乾燥工法(5~7日、施工終了後)に準じて処理します。 	<ul style="list-style-type: none"> 濡れた下地は、浮き砂を除去した後、樹脂セメント(タケモルカチオン EV+タケモルフィラー#1)で整えます。 大きい亜鉛の取扱いは、プライマーを塗布します。充填材の隙さを調整するため、バックアップ材を入れてからウレタンシーティントを充填します。等他の接着ガムアーブを張り範囲の上、植物クロス、ヤーンクロス等を作動性に整えたタケシール#1液カラーまたは、タケシール#101で貼り付けます。 既設の頃見面は、大きい亜鉛の場所と同一面積で取り替います。 下地の剥離面は、樹脂セメント(タケモルカチオン EV+タケモルフィラー#2)で平滑に整えます。 貫通部分の修理は、耐水性の方法、E-500プライマーまたは、樹脂セメント(タケモルカチオン EV+タケモルフィラー#1)を塗布します。(金属・電線配管) 	<p>#400 プライマー (1液速乾型) 使用量: 涂膜面積0.3kg以上/m²</p> <p>1回目 涂布後約1時間後、既設面以外に硬化剤を塗布量約0.3kg以上約2時間後、塗布面が黒れ色であればタケシールを上塗りして下さい。</p> <p>①特に強い込みのがほしい下地にはプライマーごセメント粉を(塗膜面約1:10)混ぜてもう一度塗り込んで下さい。</p> <p>②一度塗付されたものにはなるべく早く塗り切って下さい。</p> <p>即発効プライマー (2液速乾型) の基礎練習アリナリ 配合比1:4 使用量: 涂膜面積0.3kg以上/m²</p> <p>1回目 E-500AB(混合液)約100 シンナーを約30%加えてよく混ぜてから充分に塗布します。0.3kg/m²</p> <p>2回目 約1時間経過後 A/B混合液を薄め(1:4)、既設の位置に塗り替えて下さい。0.3kg/m²</p> <p>2~3時間後塗面が黒れ色であればタケシール#101カラーアリを上塗して下さい。</p> <p>E-500 プライマー (2液速乾型) の基礎練習アリナリ 使用量: 涂膜面積0.3kg以上/m²</p> <p>配合比1:1 目的別にA/Bに塗り替用液のA/B混合液をその割合でしてください。</p> <p>1回目 A液混合液をよく攪拌する様、充分に塗布します。0.15kg/m²</p> <p>2回目 約2時間経過後 A/B混合液を再び塗布します。0.15kg/m²</p> <p>3時間後塗面が黒れ色で充分に硬化が進む後、タケシール#101カラーアリを上塗して下さい。</p>



充分に攪拌



標準塗布量以上で、均一に塗布



少量のときは、重量比で正確な計量を!

火災警報

タケシール#101カラー防水

御注意

標準塗布量 2 kg/m²(国土交通省 仕立 3mm/m²=3.5kg/m²)

- ・施工、打設は1:1の重量比です。充分に攪拌実行します。攪拌不足は施工不良の原因になります。

タケシール#101 カラーは仕立がA液8kg、B液8kgになっています。まずB液の中味をよく攪拌し、均一にしてからA液をB液の容器に入り攪拌機で約1分間、容器の幅々まで充分に攪拌します。

- ・よく攪拌された後の可燃時間は次の通りです。

25℃/約35分 20℃/約30分

夏季の屋上は約15分位になります。

2回仕上げの時は被膜性の充分ある間に塗布量 1 kg/m²を一気に塗りぬげます。2～3日後に上塗面の施工で表面を整えます。1回仕上げの時は2 kg/m²で施工します。

- ・水平面施工の際は既存間にタケシール#100 シンナーを約5%以内添加しますと作業が容易になります。

シンナーの入り過ぎ、途中の追加は危険の原因になりますので絶対にやめて下さい。

- ・立ち上り、斜傾斜部分は脚掌がうすくなりがちです。たれ止め網・補強材を使って増し盛りして下さい。

⑤搅拌機は、用途に適した機種を御使用下さい。巨脳又はテンペアの他、搅拌機での使用は、搅拌不足（硬化不良）の原因になります。

⑥少量を小分けする場合は、A液と、あらかじめ搅拌し

搅拌が均一になったB液を量測計で正確に計量し、充分に早く搅拌混合してください。

⑦さらに、トップコートで仕上げると、汚れにくく耐久性がより一層向上します。

塗布後、軽快行が可能にまで硬化していければ、(実験 2.0℃時約24時間後) タケシール#3000 トップコート (混合重量比1:1)

または、タケシール#3000 トップコート (混合重量比1:3)

または、3~4日後タケシール#3000+防水性タケシール#49 トップ仕上げが可能です。

・プライマー、タケシール#101 カラー施工の際、火気に觸れ下さい。

・ラッカーシンナー、溶剤性シンナーは絶対使用しないで下さい。

・夏季の屋上施工はなるべく夜力を避け、早朝又は、夕方にかけて下さい。

・多雨・寒冷地での施工には、E-500プライマーやたば、AR 211 プライマーを使用し、補強材として複数クロスを併用して下さい。

・耐日ゴムヘラ

タケシール#101 カラー施工時、整膜器を同一にする為に考案されたもので、施有量により、大中を使い分けます。

耐日ゴムヘラ大

約2mm厚以上1回仕上用

耐日ゴムヘラ中

約1mm厚以上2回仕上用



幅 300 mm 高さ 135 mm

幅 250 mm 高さ 135 mm

耐日ゴム

使用法

タケシール#101: B液合液を施有量に適量出し出し、手の届く範囲の範囲
耐日ゴムヘラで軽く、まきならし、刷毛・ローラー・スパンショコラ等
で表面を整えます。

・仕立

タケシール#101 カラー (色 グレイ・グリーン)

16kgセット (A液8kg・B液8kg) 施有量積 約8m²/分

8kgセット (A液4kg・B液4kg) 施有量積 約4m²/分

・ トップコート仕上げ (色 グレイ・グリーンその他の)

タケシール#3000 トップコート 1.6kg 罐 施有量積約6.0~8.0 m²

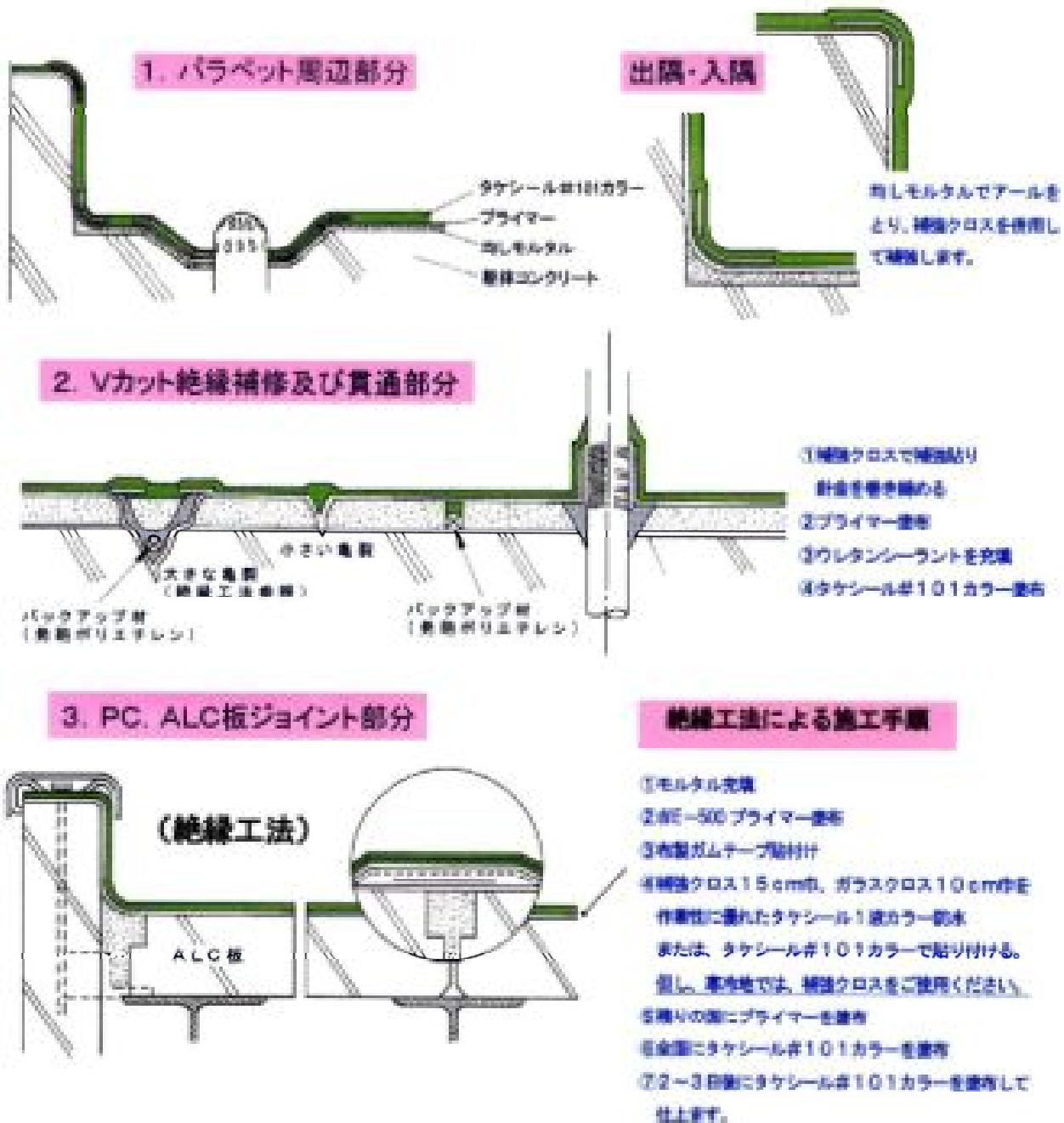
(2液組成系アクリルウレタントップコート 軽快行・一般歩行用)

タケシール#49 トップ 1.6kg 施有量積約1.07~1.33 m²

(1液型水系ウレタン柔軟アクリルトップコート 軽快行用)

各、詳細は7ページ目ウレタン防水関連材料又は、カタログをご覧下さい。

タケシール#101カラー施工略図



ウレタン防水関連材料

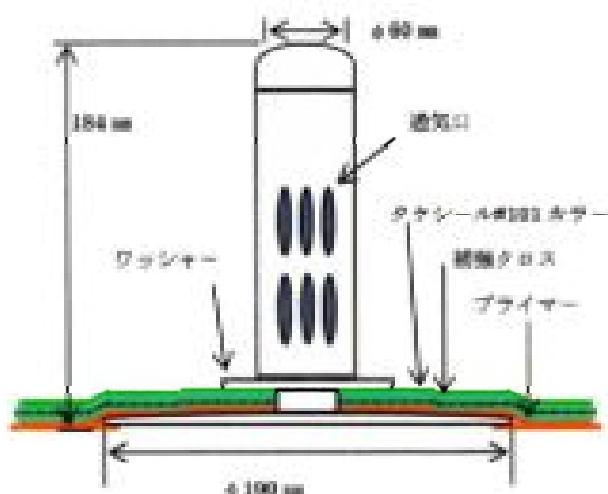
品名	用途	仕立
タケシールG400 プライマー	一般モルタル面用／塗り重ね用	15 kg 7 kg 3.5 kg
タケシール E-500 プライマー	一般モルタル面用（強接着）／金属面用	16 kg組 8 kg組 4 kg組
タケシール AE プライマー	一般モルタル面用（木系低吸強接着）	5 kg組 2 kg組
タケシールG2000 黒	一般屋上用 (#101 より軟質／主に保護セメント仕上げ)	18 kg組 9 kg組
タケシール 1液カラー防水 ⁽¹⁾	一般屋上用 (#101 よりやや軟質)	18 kg 10 kg
補強クロス	被覆材一般防水用（軟質一般用）	100 cm巾 15 cm巾 50m巻
ヤーン（ガラス）クロス	被覆材一般防水用（平滑面用）	104 cm巾 10 cm巾 100m巻
複合クロス	被覆材物表防水用（平滑面用）	104 cm巾 15 cm巾 100m巻
タケシールG3000 トップコート	保護材／軽歩行用（高光沢2液アクリルウレタン）	16 kg組 4 kg組
タケシール AQ トップコート ⁽²⁾	保護材／軽歩行用（水系1液ウレタン発泡アクリル）	16 kg 8 kg 3 kg 0.8 kg
タケシールシルバートップ	保護材／歩行用（1液環気硬化型ウレタン）	15 kg
タケトップ	保護材／軽歩行用（水系ノンスリップ仕上り）	20 kg 5 kg
タケトップPシルバー	保護材／歩行用（水系アクリル平滑仕上り）	15 kg 5 kg
タケトップPカラー	保護材／歩行用（水系アクリル平滑仕上り）	15 kg

(注1) 背景色グレイン／グリーン (注2) タケシールAQ トップコートの被覆材にタケシールAQ 屋面プライマーを塗布願います。

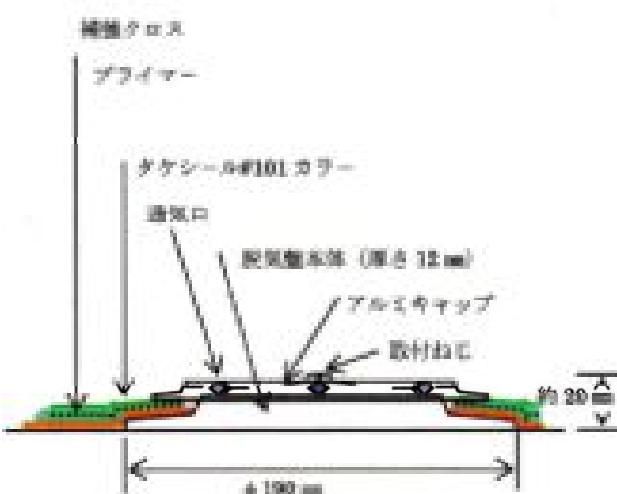
特殊工法関連材料（使用条件について、よくご相談の上、御検討ください。）

脱気筒	フクレ防止用資材（下記参照）	1個より
脱気盤	フクレ防止用資材（下記参照）	1枚より
タケモルカチオン EV	下地調整材（タケモルフィラー用モルタル混和剤）	18kg 4kg
タケモルフィラーA・1	防水下地用（タケモルカチオンEV用フィラー）	20 kg
タケモルフィラーア2	不透調整用（タケモルカチオンEV用フィラー）	20kg

〈 脱気筒 〉



〈 脱気盤 〉



タケシール® 101 カラー

性状

種類	A液	B液
外観	淡黄色透明 粘稠液体	無色粘稠液体
不揮発分 (%)	100	100
比重 (20/20°C)	1.0	1.3
粘度 (Pa·s/20°C)	60±5	50±5
配合比 (重量比)	100	100



グレイ



グリーン

物性

試験項目 - JIS A 6021 ウレタン系 1型規格。		タケシール® 101 の試験値	
硬度	(JIS A)	5.5~6.5	
引張強度	(kg f/cm ²)	2.5以上	4.2~5
破断時の伸び率	(%)	450以上	633
机密値	(kg f/cm)	3.00以上	5.40
引裂き強度	(kg f/cm)	1.5以上	2.1~4
加熱時の伸び	(%)	伸び=1以下 縮み=4以下	0 0~6
伸び時の劣化			
加熱劣化	80°C/168時間	異常なし	
紫外線劣化	サンシャインウェザーメーターによる。 250時間/温度61±2°C照射	異常なし	
オゾン劣化	オゾン・ウェザーメーターによる。 168時間照射	異常なし	
下地の電膜に対する抵抗性試験	クロスを入れないもの クロスを入れたもの	合 格	
下地に対する接着強度試験	気乾下地 振搗下地	1.0~1 (kg f/cm ²) 0.0 (kg f/cm ²)	
耐摩耗性試験	米国ASTM規格 CS-17 1000回転×(100g×2)	1.31mg	